

栃木よみうり

2010年(平成22年) 10月1日 金曜日

発行所 〒320-0822 宇都宮市河原町1-4 読売宇都宮ビル3階 (株) 栃木よみうり 【街の話は編集部】 Tel.028-638-5200 Fax.028-636-1788 Eメール info@tochiyomi.com 【広告のお申し込み】 読売栃木広告社 Tel.028-635-1261 【読売新聞ご購入】 お近くのYCへ

栃木よみうりはYCが提供しています。

読売新聞の姉妹紙・栃木よみうりは毎週金曜、読売新聞の朝刊に折り込んで、栃木県内のみなさまにサービスでお届けいたします。

⑥ もみの木

クロワッサンラスク

実は、甘味三昧の読者から頂いたお便りの中で、紹介してほしいお店ナンバーワンが佐野市の「もみの木」でした。何度か足を運んでみると、甘く、うれしい食べごたえ

みて、納得。僕のわがままです。お店のものも含めて食べたことがありますが、クロワッサンのラスクとは初めての出会いです。サクサクとした歯ごたえが快感なのと、うれしい食べごたえ

プレゼント

10人

利市民プラレ。200けるなど活ソナタ第3ュード作品

ペア5組

サンプル&クワイアー第18回演奏会(宇都宮市文化会館大ホール)の招、合唱とオーケストラで構成。パッパ」。指揮は片岡真理。ソプラノ藤崎美也、テノール石川洋人、バス藤井大アンサンブル」係へ。10月8日必着。

20人

11日に開クオカ。よしも小森純トレース桐

氏名、年齢、電話番号、紙面の「(各プレゼント名)係」へ。

足利龍泉寺に美術館が落成

24日まで記念展

【足利】龍泉寺(助戸、源田俊昭住職)の美術館落成記念展が始まり、多くの美術ファンが名品の展示に

とちよみくんブログ日々更新中

助戸の石川幸治さん(63)は「立派な美術品が並び、見ていると心が安らぐ。また見に来たい」と感心しながら鑑賞していた。

午前10時午後4時。鑑賞は無料だが、写経奉納(500円)が必要。記念



黒光りする梁や天井を鑑定する鈴木さんと薄井さん

【那須塩原】古民家を調査し、保存や再利用を企画、提案する「栃木県古民家再生協会」(鈴木健規理事長、4人)は、古民家の価値を高める活動に積極的に取り組んでいる。

同協会(安藤町)は、市内の建築事務所に勤める鈴木理事(32)と薄井菜摘さん(21)を中心に今年6月に設立した。

鈴木さんは財団法人職業技能振興会の認定制度「古民家鑑定士」の資格を今年4月に取得。古民家の価値を試算し、物件の売買や部材の利用方法を助言する資格を得て、国内最年少で女性初のインストラクター薄井さんとともに、各地の古い建物を調査している。

9月には築125年の民家を訪れ、470項目のチェック作業を行って鑑定した。伝統的な建築方法、太い梁、囲炉裏の煙でいぶ

古民家を鑑定 価値を高める

「再生協会」 梁や天井、再利用を提案



よみうりさわやか野球教室

元巨人軍の選手を講師に 所町の市総合運動公園硬式野球場で行われる。

野球教室(読売新聞東京本社、栃木南部読売会主催)が、2日、足利市田

鈴木さんは「古材の再利用で環境問題に関心をもち、O₂削減につなげ、『捨てるは廃材、活かせば資源』を理念に活動して、循環型社会の実現に寄与したい」と話している。

10月17日には薄井さんの講習会を予定。来年は、若者が環境問題に関心を持つ機会にしたいと、地域に残る古民家や昔ながらの町並みを撮影して発表する高校生対象の「民家の甲子園」を県内で開催する計画だ。

0287-734004



秋風の真岡で綿の摘み取り

【真岡】秋風が心地よい綿畑で、真岡木綿に使う綿の摘み取りが本格的に始まった。写真。

東郷にある木綿会館の畑30アには綿の木約2000本が植えられ、同館の織姫16人が白い綿を次々と摘んでいる。

「今年は異常気象のせい、やや小ぶり」と花井恵子代表。作業は霜が降りるまで続き、乾燥、種取りをして糸をつむぐ。この後、真岡木綿として、着物やのれんの素材に使う。

近況報告みたいなもので... クラスメートら16人が作品展

【佐野】市立城東中を卒業した小川恭史さん(61)が、本町から3年8組のクラスメート5人を含む16人は10月1日から3日まで、たぬまふるさと館で「小川恭史とゆかいな仲間展」を開く。

小川さんが墨彩画を描いた年賀状を今年、同級生に出したことが開催のきっかけ。当初は小川さんの作品展を考えたが、展示スペースに余裕があったため、市内に住む同級生13人に出品を依頼し、4人が応募した。

さらに同級生以外の友人に声をかけたところ11人が協力してくれ、開催にこぎつけた。展示作品は墨彩、書、絵手紙、写真、ツールペイントなど計48点。

小川さんは「作品を通じて1年間こんなことをして過ごしたという同級生への近況報告の場にした。来年以降も続けるつもりなので、私たち3年8組だけでなく、1組から9組までの同級生にも作品を募りたい」と話している。



仲間展を開く小川さん(たぬまふるさと館で)